特集 社会科学としての個人の資産運用

個人の性格と投資に対する態度について

山　根　承　子

目　　次

1．はじめに
2．Big Fiveとは
3．Big Fiveと投資行動
4．日本における研究
5．プロフェッショナルにおける研究
6．集団としての性格と投資行動
7．おわりに

本稿では、Big Five性格特性という測定法に着目し、個人の全般的な性格と投資行動の関連研究を概観する。Big Fiveが投資行動に与える影響は大きく、特にBig Five性格特性のうち、「神経症傾向」が高いと投資に消極的、「開放性」が高いと投資に積極的であるという結果が多く得られている。国内外を問わず個人はもちろんプロフェッショナルにおいても、世帯単位や国単位においても、Big Five性格特性が投資行動に与える影響が明らかにされている。

1．はじめに

人々の投資行動を観察していると、その個人差に驚くことが多い。いくら勧めても投資を始めない人もいれば、自分でどんどん調べて知識をつけ、いろいろな種類の投資を行っている人もいる。ポートフォリオの多様性からも、人の好みが千差万別であることを実感できる。このような個人差は、「元々の性格が違うからだ」とまとめられがちであるが、実は、性格の影響をきちんと分析した学術研究は多くはない。

投資行動に関連して、最も研究が盛んな「性格」はリスク許容度だろう。例えばBruhin *et al.*［2010］は実験データからリスク選好関数を推計し、２タイプの個人がいることを明らかにしているし、Brooks and Williams［2024］は、欧州６カ国の個人投資家のリスク許容度を比較し、国ごとに特徴があることを示している。近年は、企業が提供するオンラインの投資診断サービスにも性格診断が含まれていることがあるが、そこで考

山根　承子（やまね　しょうこ）
株式会社パパラカ研究所代表取締役社長。2012年３月大阪大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得満期退学。博士（経済学）。近畿大学経済学部准教授を経て2020年１月より現職。主な著書に『努力は仕組み化できる―自分も・他人も「やるべきこと」が無理なく続く努力の行動経済学―』（日経BP、2024年）、『スッキリわかる！今日から使える行動経済学』（共著、ナツメ社、2019年）、『行動経済学入門』（共著、東洋経済新報社、2017年）がある。行動経済学会常任理事、一般社団法人投資信託協会理事。